

2022年度 第1四半期 決算概要

2022年8月10日
沖電気工業株式会社

2022年度 第1四半期 決算の概要

- 半導体等部材調達難による影響が続く。
- 売上高は半導体等部材不足による生産減が影響し減収。
- サプライチェーン影響あるも、固定費減などにより営業利益は前年並み。
- 構造改革に伴う特別損失の減少により、四半期純損益は前年比改善。

(単位：億円)	22年度 実績	21年度 実績	前年比
売上高	781	799	△18
営業損益	△30	△29	△1
経常損益	△31	△26	△5
(親会社株主に帰属する) 四半期純損益	△32	△37	+5
USD平均レート (円)	129.6	109.5	+20.1
EUR平均レート (円)	138.1	132.0	+6.1

- 決算の概要です。第1四半期は売上高781億円、営業損失が30億円、四半期純損失が32億円とほぼ前年並みの水準で着地しました。
- まずサプライチェーン影響ですが、市場全体では在庫調整と思われる流通量の増加が見られる他、将来の供給正常化に向けた明るい話題も出つつありますが、正規品を中心に全体として不透明な状況が続いております。
- OKIの第1四半期で見ても一部前倒しで入手できた部材がある一方で、新たに供給不足となる部品の発生やサーバーといった半製品に納期遅延が起きるなどモノによってばらつきが出ております。
- 営業利益についてはサプライチェーンによるマイナス影響もありましたが、好調な事業の物量増と固定費減等のプラス要因もあり、ほぼ前年並みとなりました。
- なお、為替による影響ですが、売上で約10億円のプラス、利益項目についてはプラスマイナスいずれもありましたが最終的に大きな影響なく着地することができました。
- また四半期純損益については構造改革が峠を超えたことから特別損失が減少し、前年比で5億円改善となりました。
- ページ下段に記載の通り、期中の平均為替レートはUSD 129.6円で対前年20.1円の円安、EURは138.1円で同6.1円の円安となっております。

2022年度 第1四半期 セグメント別売上高/営業利益

(単位：億円)

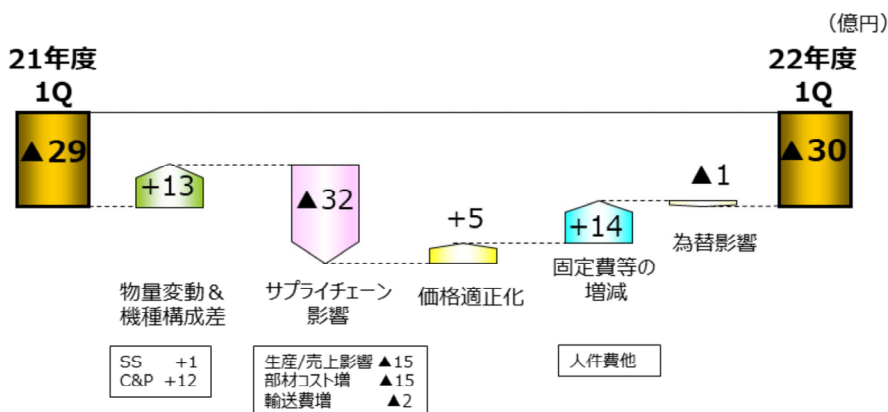
売上高	22年度 実績	21年度 実績	前年比
ソリューションシステム	361	339	+22
コンポーネント&プラットフォーム	419	459	△40
その他	1	1	±0
合計	781	799	△18

営業利益	22年度 実績	21年度 実績	前年比
ソリューションシステム	△12	△1	△11
コンポーネント&プラットフォーム	△8	△15	+7
その他	1	1	±0
消去・本社費	△11	△14	+3
合計	△30	△29	△1

- セグメント毎の売上高と営業利益です。
- まず売上高ですが、ソリューションシステムは部材調達難による前年からの期ズレ案件の影響により、前年比22億円増収の361億円となりました。
- コンポーネント&プラットフォームは前年比40億円減収の419億円となりました。FA/半導体製造装置向け売上は引き続き好調であったものの、コンポーネント、特に自動機事業において、半導体他部材不足による生産影響が響き、全体では減収となりました。
- つづいて営業利益です。ソリューションシステムは前年比11億円減少し12億円の営業損失となりました。特に部材コスト増による影響をうけて前年比悪化となりました。一方コンポーネント&プラットフォームはサプライチェーンによるマイナス影響に対し、構造改革による固定費減や案件構成差などのプラス要因により、前年比7億円改善し、8億円の営業損失となりました。

2022年度 第1四半期 営業利益の変動要因

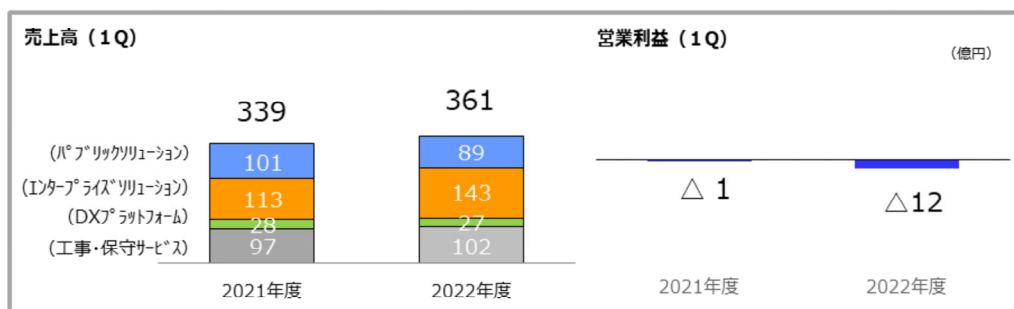
- 部材調達難による生産および部材・輸送費の高騰による影響続く。
調達力強化や価格適正化などサプライチェーン影響への対応力強化にむけた施策を取組中。
- 好調なモノづくりプラットフォームの物量増や自動機事業の案件構成差などによりプラス。
- 構造改革などにより固定費は減少。



- サプライチェーンによる利益への影響ですが、全体では32億円のマイナスとなっております。内訳としては生産、売上減による影響が15億円、部材費・輸送費のコスト増をあわせて17億円となります。セグメント別ではソリューションシステムで8億円、コンポーネント&プラットフォームで24億円です。今年度はサプライチェーン影響への対策強化を優先課題とし、具体的には調達活動の強化、代替設計推進、お客様への価格適正化などに取り組んでおります。収益への本格的な貢献としては下期以降となる見通しですが、第1四半期においても価格適正化の効果も出てきており、引き続き各種対策の推進に注力して参ります。
- 物量変動・機種構成差ですが、モノづくりプラットフォームの物量増の他、前年にあった自動機事業の原価率の高い案件の減少など案件構成差などにより全体で13億円のプラスとなっております。
- 固定費等の増減についてですが、コンポーネント&プラットフォームにおける中国拠点の収束や欧米販社の人員削減などにより14億円の固定費減となりました。

ソリューションシステム事業 概況

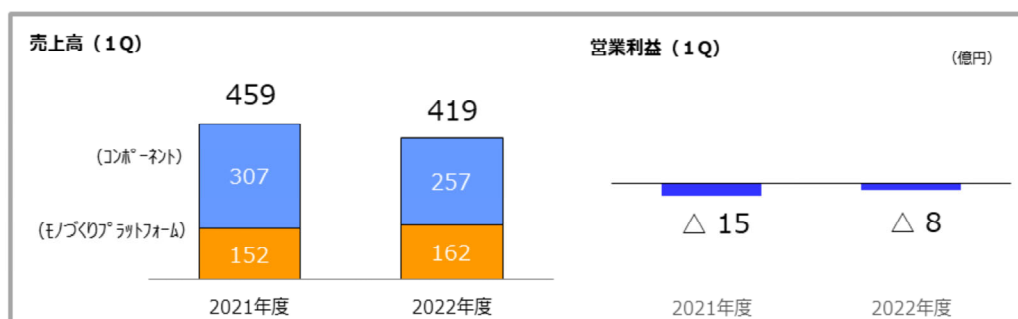
- エンタープライズは部材調達難による前年からの期ズレ案件により増収。
営業利益については部材調達コスト増により減益。
- DX領域売上 1Q 84億円（前年同期 62億円）



- ソリューションシステムの事業概況です。
- エンタープライズ領域で部材の納期遅延から今期へズレこんだ通信キャリア向け案件などにより、ソリューションシステム全体で増収となりました。
- 利益面では部材コスト増を十分に打ち返せず、前年比減益となりました。
- またDX領域の売上高は84億円となり、前年と比べると22億円増となっております。

コンポーネント&プラットフォーム事業 概況

- モノづくりプラットフォームはFA/半導体製造装置向け売上が引き続き好調。コンポーネントは自動機事業において、半導体不足による生産影響により減収。情報機器事業の売上は為替影響もあり前年並み。
- 情報機器事業の構造改革による固定費減のほか、自動機事業の案件構成差による影響もあり営業利益は前年比プラス。



- コンポーネント&プラットフォームの事業概況です。
- モノづくりプラットフォーム事業は、部材調達影響を受けているものの、FA/半導体製造装置向けが引き続き好調で前年比増収となりました。
- コンポーネント事業は、自動機事業において半導体等部材供給不足による生産減影響を受け減収となりました。また、情報機器事業については為替影響もありほぼ前年並みの売上となりました。
- 利益面では構造改革による固定費改善の他、自動機事業の案件構成差といった要因もあり、前年比増益となりました。

2022年度 第1四半期 B/Sの概要

- 各資産・負債の構成に大きな変化無。
- 自己資本比率は1.8ポイント減少。

(単位：億円)	22年 6月	22年 3月	前年度末比
流動資産	2,127	2,118	+9
固定資産	1,589	1,573	+16
資産の部	3,716	3,692	+24
流動負債	1,708	1,580	+128
固定負債	991	1,036	△45
負債の部	2,699	2,615	+84
自己資本	1,015	1,074	△59
その他	2	2	±0
純資産	1,017	1,076	△59
負債及び純資産合計	3,716	3,692	+24
自己資本比率(%)	27.3	29.1	△1.8
DEレシオ(倍)	0.9	0.8	+0.1

- 各資産・負債の構成に大きな変化はありません。
- 流動資産についても総額としては3月末から大きく変わっておりませんが、内訳として売上債権が回収による減少の一方、棚卸資産は3月末からさらに増加しております。
- 棚卸資産については、部材調達の状況を鑑み、お客様への製品供給を実現するうえで、必要部材の早期確保、ならびに生産平準化の実施などによる半製品の作りだめといった施策によるものと部材不足による製品の出荷遅れといった要因が重なり増加しております。
- 総資産は前期末から24億円増加の3,716億円。
- 自己資本は前期末から59億円減少の1,015億円となりました。
- 結果、自己資本比率は27.3%、DEレシオは0.9倍となりました。

2022年度 第1四半期 キャッシュフローの概要

- 営業キャッシュフローはサプライチェーン影響による運転資本増により前年比悪化。

(単位：億円)	22年度 実績	21年度 実績	前年比
I 営業キャッシュフロー	0	214	△214
II 投資キャッシュフロー	△49	△43	△6
フリー・キャッシュフロー(I + II)	△49	171	△220
III 財務キャッシュフロー	43	△66	+109
現金および現金同等物の残高	342	525	△183
固定資産取得額	39	45	△6
減価償却費	29	30	△1

- フリーキャッシュフローは49億円のマイナスとなりました。先ほどご説明した通り、サプライチェーン影響対策として部材確保や部材不足による出荷遅れによる棚卸増から運転資本が増加したことにより前年比悪化となっております。
- 現金同等物は342億円と必要な手元資金は確保しております。

(補足) セグメント別売上高/営業利益 (四半期別推移)

(単位: 億円)

売上高	21年度					22年度
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q
ソリューションシステム	339	350	387	550	1,626	361
コンポーネント & プラットフォーム	459	448	478	505	1,890	419
その他	1	1	1	1	4	1
合計	799	799	866	1,057	3,521	781

営業利益	21年度					22年度
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q
ソリューションシステム	△1	△1	17	80	95	△12
コンポーネント & プラットフォーム	△15	4	45	1	35	△8
その他	1	0	1	1	3	1
消去・本社費	△14	△17	△21	△23	△75	△11
合計	△29	△13	41	59	59	△30

(補足) 各事業の主な製品およびサービス

ソリューションシステム

- **パブリックソリューション**
 - 道路 (ETC/VICS)、航空管制、防災、消防
 - 中央官庁業務システム、政府統計システム
 - 防衛システム (水中音響/情報)
 - インフラモニタリング
- **エンタープライズソリューション**
 - キャリアネットワーク、映像配信、5G・ローカル5G
 - 金融営業店システム、事務集中システム
 - 鉄道発券システム、空港チェックインシステム
 - 製造システム (ERP/IoT)
- **DXプラットフォーム(プロダクト/サービス)**
 - AIエッジコンピューター、センサー、IoT NW
 - PBX、ビジネスホン、コンタクトセンター
 - クラウドサービス
- **工事・保守サービス**

コンポーネント&プラットフォーム

- **コンポーネント**
 - ATM、現金処理機
 - 営業店端末、予約発券端末、チェックイン端末
 - ATM監視・運用サービス
 - LEDプリンター
 - 大判インクジェットプリンター
 - ドットインパクトプリンター
- **モノづくりプラットフォーム**
 - 設計・生産受託サービス
 - プリント配線基板

ご注意

※本資料における業績予想および事業計画等は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断される一定の前提に基づいております。したがって実際の業績は様々な要因により、これらと異なる可能性があることをご承知おきください。

※億円単位の数値の表示方法について：
各項目の数値は、それぞれの数値の億円未満を四捨五入して表示しています。
また増減については、億円単位の数値を元に計算しています。

